



OHDSI イブニングカンファレンス 2026年5月

# OMOP Learning Platform

関係者の理解を揃え、標準化施策を安定  
運用するための学習パッケージ

Kazutoshi Izawa

IQVIA Solutions Japan G.K.

本資料は未公表の著作物として著作権法その他の法令に基づき保護されております。また、本資料にはIQVIAの秘密情報が含まれているため、掲載内容の一部及び全部を、本資料の開示目的以外の目的で使用したり、IQVIAに無断で転載、複製、公開等することを禁止します。なお、IQVIAは掲載内容の正確性・妥当性につき細心の注意を払っておりますが、その保証をするものではなく、利用者が本資料の掲載内容を利用して行う一切の行為（掲載内容を編集・加工等した情報を利用することを含みます。）について何らの責任を負うものではありません。

Copyright © 2026 IQVIA. All rights reserved.

This document is protected under the Copyright Act and other related laws and regulations of Japan as an unpublished work. This document contains confidential and proprietary information of IQVIA and shall not be (1) used for any purpose other than the essential purpose for which this document is disclosed to the recipient or except those expressly authorized by IQVIA, or (2) duplicated, copied, reproduced or disclosed without prior approval from IQVIA in whole or in part. While IQVIA have paid due care regarding the information contained herein, IQVIA makes no representation or warranty of any kind with respect to the accuracy and adequacy of this information. Accordingly, IQVIA does not accept any responsibility for any actions (including but without limitation, editing and processing) carried out by the recipient of this document utilizing the information contained herein.

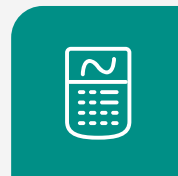
Copyright © 2026 IQVIA. All rights reserved.

# OMOP活用の壁

OMOPの利活用を進めていく中で、多くの組織で共通して見られる課題があります

## 研究に着手するまでのハードル

- RWDを使った研究アイデアがあってもデータが分散しており、すぐに分析に入れない
- OMOP CDM形式のデータを使えば解決できそうだが、組織としての理解が十分ではない



## 知識の属人化

- 推進者が個人的に学んでいるケースは多い一方、それを他のメンバーに体系的に説明することが難しい
- 結果として、組織の共通言語になっていない



## 学習のハードル

- 日本語で体系的に学べる機会は限られている
- OHDSIのリソースは非常に充実しているが、初学者にとってはどこから学ぶべきか判断が難しい



## 実務への接続の難しさ

- OMOP変換やOMOPデータの解析を外部リソースを使うケースも多い
- 発注側として「何をレビューすべきか」「成果物をどう評価すべきか」がわかりにくい



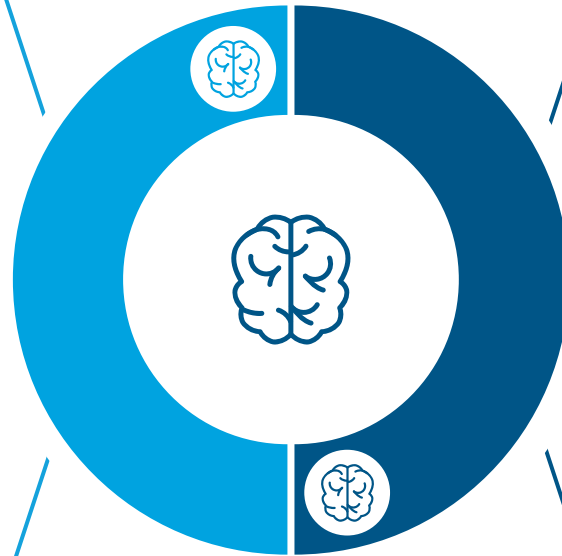
# 「知っている」と「使える」のギャップ

個人の理解を組織の能力に転換する必要があります

## 「知っている」状態

- OMOP CDMの概念は理解している
  - それを
    - 説明できる
    - 評価できる
    - 実務で使える
- レベルには至っていない

個人の理解



組織の能力

## 「使える」状態

- 断片ではなく体系的に理解する
- 実務（ETL・QC・解析）と接続する
- 繰り返し学習できる環境がある
- 組織内で再利用できる知識が蓄積される
- 解析結果をデータ生成・変換の背景を踏まえて理解できる

# 課題への一つのアプローチ

こうした課題認識のもと、弊社のプロジェクトや教育の経験を踏まえて、OMOPの基礎理解を体系的に整理し、実務に接続する形で学べるe-Learningコンテンツを構築しました



## 実務で必要となるスキル、躓きやすいポイントを抽出

- IQVIAでのプロジェクトや教育の経験をベースに、実務で必要となるスキルやPitfall（落とし穴）をカバー
- 解析・研究に関わるすべての立場で、データの成り立ちまで理解することを前提に設計

## OHDSIが提供している知識をベース

- 特別な新しい考え方ではなく、OHDSI提供の知識をベースとしたコンテンツ作り

## 日本語で、順序立てて学べる形に整理

- 日本の置かれた状況、環境に適した形でコンテンツを整理
- いつでも、どこでも学びやすいe-learning形式

# OMOP Learning Platform

体系的な学習を通じて、OMOP導入の推進に役立てます

## Purpose

- 日本の医療機関およびITベンダー向けに、体系的かつ包括的なトレーニングを提供する
- OMOP CDMおよびETLプロセスの理解を促進し、データ変換効率と研究生産性の向上を実現する

## Benefits

- 分散しているリソースの課題に対応し、OMOP CDMおよびETLに関する明確な学習パスを提供する
- ダミーデータおよびサンプルSQLスクリプトを用いたハンズオン演習を含む
- データ品質およびデータ変換プロセスに対する信頼性・確信を高める
- 医療機関およびベンダーによるOMOP標準の導入を支援し、実装の複雑性を低減する

## Technical Aspects

- ビデオチュートリアル
- コースモジュールは、OMOPの基礎、ソースデータ準備、ETL工程、データ品質チェック、ATLASの利用を網羅する
- 全モジュールの総学習時間は、約20～30時間を想定

## Contents

- トレーニングコースは8モジュールで構成
  1. OMOP CDM 基礎
  2. Vocabulary Mapping
  3. Concept Relationships and Concept Ancestors を深掘する
  4. ETL
  5. CDM Data Quality Check
  6. OHDSI ETL-Syntea (Open-sourceツールのDemo)
  7. OHDSI DQD (Open-sourceツールのDemo)
  8. OHDSI ATLAS (Open-sourceツールのDemo)

# OMOP Learning Platform : 第1部 OMOP CDM基礎

- ×
- General
  - このコースについて
- 第1部\_OMOP CDM基礎
- 第2部\_Vocabulary Mapping
- 第3部\_Concept Relationship...
- 第4部\_ETL
- 第5部\_CDM Data Quality Check
- 第6部\_OHDSI ETL-Synte... (Op...)
- 第7部\_OHDSI DQD (Opensour...)
- 第8部\_OHDSI ATLAS (Openso...)

OMOP CDMへのデータ変換 / 第1部\_OMOP CDM基礎

## 第1部\_OMOP CDM基礎

本章では、OHDSI OMOPの基礎となる概念、および医療研究におけるその応用方法について解説します。また、OMOP CDMの基本的な要素についても触れ、特にVocabulary、Concept、Concept Relationship、Concept Ancestor、Clinical Data Tablesに焦点を当てて紹介します。この章の目的は、これらの概念を初学者にも理解しやすい形で提供することです。ETL開発におけるこれらの概念の理解は極めて重要であり、コース全体にわたって実践的な内容も盛り込まれています。実習を進める中で、本章の内容を定期的に復習することをお勧めします。



1. OMOP CDM 基礎
2. Vocabulary Mapping
3. Concept Relationships and Concept Ancestors を深堀する
4. ETL
5. CDM Data Quality Check
6. OHDSI ETL-Synte (Open-sourceツールの Demo)
7. OHDSI DQD (Open-sourceツールのDemo)
8. OHDSI ATLAS (Open-sourceツールの Demo)

# Key Takeaways

基礎にとどまらず、  
実務で使えるレベルへ

1

## “知っている”から“使える”レベルを目指す

- 多くの学習は「概念説明」で止まりがち
- 本コースは ETL・データ品質 (DQ) ・ATLAS操作の具体イメージまで到達
- 解析結果は、データの生成・変換プロセスの理解があって初めて正しく解釈できる

現場の流れに沿って  
学ぶ

2

## むずかしい用語を研究の“現場の流れ”で理解する

- 「理解→変換→品質チェック→解析」を一連の流れで整理
- 用語や概念を“実務の文脈”で理解
- 初学者や非IT部門でも迷いにくい設計

組織の共通言語を作る

3

## 導入前の手戻りを最小化し、スムーズに立ち上げる

- OMOP導入は、初期の認識ギャップでつまずきやすい
- 本トレーニングは、そのギャップを埋めるための基盤として機能
- PoC～導入を円滑に推進

OHDSI イブニングカンファレンス 2026年5月

# ご清聴ありがとうございました

伊澤 和俊

IQVIAソリューションズジャパン合同会社

Data Science & Consulting Services

Payer, Provider and Government (PPG)

お問い合わせ先： [kazutoshi.izawa@iqvia.com](mailto:kazutoshi.izawa@iqvia.com)

 IQVIA

